



小学5年生を対象とした，辞書に親しむ授業の実践報告：紙の辞書とウェブの辞書の差異

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-02-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西内, 沙恵 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000117

小学5年生を対象とした、辞書に親しむ授業の実践報告

—紙の辞書とウェブの辞書の差異—

西内 沙恵

1. はじめに

本論文は小学5年生を対象に行った、辞書に親しむことを目指した授業実践を報告するものである。あわせて、クラスごとに紙の辞書もしくはウェブの辞書を使用したことで認められた、媒体による差異を示す。授業は2023年4月、北海道国立H小学校の5年生2クラス、計68名を対象に実施させていただいた。授業では『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『国語』における〔小学校第5学年及び第6学年〕の内容〔知識及び技能〕(1)オ「思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。」に関わる学習状況に深まりと広がりを生む活動の実践を試みた。

2. 先行研究

石黒・柏野（2018）、国立国語研究所 YouTube 公式チャンネル（2021a, 2021b, 2022a, 2022b）で児童が辞書を活用し語彙を増やすことを推進する方略が講じられている。本論文で報告する授業では、語釈を中心的な題材として、辞書に親しむことを目指した取り組みを、授業内の活動で実現しようと試みた。また、紙かデジタルかという媒体を観点に、期待される効果を検討する。現在、文部科学省のGIGAスクール構想により、学校教育においてデジタル端末を用いた学習が推進されている。デジタル端末の普及により、媒体の違いによる学習効果や認知能力の形成が懸念されていた。ただし、紙媒体とデジタル媒体の比較研究（菅谷2012、中嶋・菅谷2013、福田・内山2015、國田2015、菅谷2016、國田2016、足立2022、指澤ほか2022、黒川ほか2022、難波ほか2022）の結果から、紙かデジタルかという媒体差による内容理解の差異はないとされている。本論文では授業実践の報告に加え、辞書に関しても媒体差がないといえるか、活動で用いたワークシートを通して、媒体の違いからもたらされる効果を考察する。これにより、デジタル端末を用いた学習が今後ますます推進されることが予想される中で、デジタル端末でどのような活動が実現できるかを検討する。

3. 授業実践

授業の到達目標は、ある言葉について、当該の語を使わずに説明する語釈が作れるようになることとした。語釈を作るという目標に向かって、語釈に対する理解を深めるクイズなどの活動を行うことで、辞書について知り、親しみを持つようになることを目指した。場面設定として、授業実施者が国語辞典が大好きであり、児童生徒に国語辞典の作成を手伝ってほしいと協力を仰ぐ形を取った。そのうえで、語釈が説明する語が何かを考える活動、辞書を引く活動、語釈を作る活動を行った。本節では前述の3種の活動実践を紹介する。

3.1 語釈が説明する語が何かを考える活動

まず、語釈の導入として、クイズ形式で語釈が説明する語が何かを考える活動を行った。本活動は3段階で語釈について理解が深まるよう構成している。第1段階は語釈が説明する語を選択肢から選ぶ活動である。図1から図4のようなスライドを提示し、文がどの語の説明だと思うか挙手で回答を確認した後、それぞれの答えが図1では「およぐ【泳ぐ】」、図2では「うぐいす」、図3では「さくら【桜】」、図4では「ひこうき【飛行機】」であることを示した。図の語釈は児童生徒が使用する辞書、湊（2007）による。そして、答えを発表した後、なぜほかの選択肢ではないのかを問いかけて、語釈の中にほかの選択肢では当てはまらない説明があることを確認した。例えば、図1では「水面」とあることから「もぐる【潜る】」ではないことがわかり、「進む」という説明から「おぼれる【溺れる】」ではないことが特定される。選択肢は正答、錯乱肢、誤答だと判断しやすい選択肢を混ぜて作成している。授業では正答に挙手する児童生徒が多く、錯乱肢に挙手する児童生徒も若干名いた。なお、実際の授業では時間の関係で2問ほどの出題に留めている。クイズの順番は児童生徒も経験のある人間の動作というより基本的な語をはじめに出題し、動物の鳴き声、国花、乗り物の原動力など答えを導くのに知識が必要な語釈を後にし出した。

第1段階を踏まえ、語釈という語を導入した。語釈について「語釈とは説明する語を使わずに、語の意味を説明する文です。説明を読めば、その語が何を指すかわかります。よく似た意味の語と区別できます。」と説明している。第1段階の活動で説明される語が選択肢から特定されたように、語釈が類義語と区別できるように作られていることを共有した。

どの言葉の説明かな？

手足やひれを動かして、水中や水面を進む。

もぐる【潜る】 およぐ【泳ぐ】 おぼれる【溺れる】




図1 説明される語を選択肢から選ぶ活動1

どの言葉の説明かな？

野や山にすむ小鳥のなかま。
背中は茶色っぽい緑で、腹は白い。
春先に、「ホーホケキョ」と美しい声で鳴く。

うぐいす めじろ【目白】 シマエナガ




図2 説明される語を選択肢から選ぶ活動2

どの言葉の説明かな？

ばらのなかまの木の一つ。
春にうすいもも色の花がさく。
日本の国花として親しまれており、昔から歌や詩によまれている。

さくら【桜】 うめ【梅】 チューリップ




図3 説明される語を選択肢から選ぶ活動3

どの言葉の説明かな？

プロペラやジェットのカで空を飛び、つばさのついた乗り物。

ヘリコプター ひこうせん【飛行船】 ひこうき【飛行機】




図4 説明される語を選択肢から選ぶ活動4

第2段階は語釈が説明する語を選択肢なしで考える活動である。図5の説明を、1文ずつ「人に飼われることが多い動物の一つ。」「においをかぎ分けたり、音を聞いたりする力にすぐれている。」「人によく従い、家の番や目の不自由な人の案内などに役立つほか、ペットとされる。」と順に提示し、

情報を増やししながら、思いついた人から回答を発表してもらった。2つ目の情報までは「犬」,「猫」等いくつかの回答が出るが、3つ目の情報で犬だと意見が一致したところで、図6のように答えを発表した。「いぬ【犬】」のほか、「畑につくられる作物の一つ。」、「太くなった根の部分を利用する。」、「江戸時代に中国から沖縄を通り、九州へ伝わった。」、「アルコールなどの原料にもなる。」と順に提示するクイズも用意していた。答えは「さつまいも」である。第2段階を通して、語釈が類義語と区別できるように作られているという理解が強化されるよう設計している。

何の言葉の説明かな？

人に飼われることが多い動物の一つ。
においをかぎ分けたり、音を聞いたりする力にすぐれている。
人によく従い、家の番や目の不自由な人の案内などに役立つほか、ペットとされる。

何の言葉の説明かな？

人に飼われることが多い動物の一つ。
においをかぎ分けたり、音を聞いたりする力にすぐれている。
人によく従い、家の番や目の不自由な人の案内などに役立つほか、ペットとされる。

いぬ【犬】




図5 語釈から語を選択肢なしで考える活動

図6 語釈から語を選択肢なしで考える活動の答え

さらに、第2段階の活動は第3段階への導入としても位置付けている。図7のように「①山奥にすむとされていた想像上の怪物。」、「鼻が高く赤い顔をしていて、つばさで空を自由に飛ぶとされる。」という説明を提示すると、「てんぐ」という回答が児童生徒から発表される。そこで、図8のように答えを示したうえで、①の語釈から導かれた答え「てんぐ」は「②うぬぼれて、いい気になること。またその人。」という意味も持つ多義語であることを図9のように紹介する。多義語は「同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語」(国広1982:97)と定義される。語の多義性は中心的な意味から多様な拡張のプロセスを経て複数の意味が定着する現象であり、語釈は語の多義的な実態を写しとっている。辞書に親しむことを目指す活動において、語釈を題材とすることで、多義語への理解が深まり、語彙の質が豊かになることが期待される。

何の言葉の説明かな？

① 山奥にすむとされていた想像上の怪物。
鼻が高く赤い顔をしていて、つばさで空を自由に飛ぶとされる。

何の言葉の説明かな？

① 山奥にすむとされていた想像上の怪物。
鼻が高く赤い顔をしていて、つばさで空を自由に飛ぶとされる。

てんぐ




図7 第3段階に向けて語釈から語を考える1

図8 第3段階に向けて語釈から語を考える2

何の言葉の説明かな？

- ① 山奥にすむとされていた想像上の怪物。
鼻が高く赤い顔をしていて、つばさで空を自由に飛ぶとされる。
- ② うぬぼれて、いい気になること。
またその人。

てんぐ




図9 第3段階に向けて語釈から語を考える3

第3段階は多義語の複数の語釈から語を考える活動である。ある語を説明するために複数の語釈が必要な場合があること、また実際の用例に基づき語釈が作られていることの確認を目的としている。図10及び図12のような複数の語義を、番号が大きい語義から順に提示し、何の語釈だと思いか児童生徒に発表してもらう。①まで提示し、答えを示し、用例とともにそれぞれの語釈を確認していく。なお、第3段階は児童生徒の正答を想定していない。第1段階、第2段階で成功体験を重ねたうえで、第3段階では語釈が用例に基づいて作られているという過程への理解を促すことで、語釈を作る活動につなげる。問題の難易度が高く正答を導くことが難しいため、答えの語は児童生徒も経験のある人間の動作というより基本的な語から選出している。

何の言葉の説明かな？

- ① 文字や文章を見て、声に出して言う。音読する。
- ② 文字や文章、図表などを見て、その意味や内容を理解する。
- ③ 人の考えやものごとの成り行きをおし量る。
- ④ 数える。

図10 多義語の語釈から語を考える活動1

何の言葉の説明かな？

- ① 文字や文章を見て、声に出して言う。音読する。
大きな声で読む。
- ② 文字や文章、図表などを見て、その意味や内容を理解する。
新聞を読む。
- ③ 人の考えやものごとの成り行きをおし量る。
相手に作戦を読まれた。
- ④ 数える。
目盛りを読む。

よむ【読む】




図11 多義語の語釈から語を考える活動1の答え

何の言葉の説明かな？

- ① 人や動物が、速く進む。
- ② ものが、速く動く。
- ③ ある方向に通っている。
- ④ 方向がかたよる。
- ⑤ 急に現れて消える。
- ⑥ 思うように速く進む。

図12 多義語の語釈から語を考える活動2

何の言葉の説明かな？

- ① 人や動物が、速く進む。
犬が走る。
- ② ものが、速く動く。
車が走る。
- ③ ある方向に通っている。
道が東西に走る。
- ④ 方向がかたよる。
悪事に走る。
- ⑤ 急に現れて消える。
かたに痛みが走った。
- ⑥ 思うように速く進む。
ベンが走る。

はしる【走る】




図13 多義語の語釈から語を考える活動2の答え

3.2 辞書を引く活動

次に、辞書を引く活動では、児童生徒に知名度が高いアニメの動画を10秒ほど視聴した後、台

詞の中の語の意味を問いかけ、辞書を引き、語釈を確認した。多くの児童生徒が当該のアニメを視聴した経験があることを事前に確認しており、語としては聞いたことがあるが、説明しにくい状況を作り、辞書を参照する方略を共有した。また、語釈から当該の語が作中で使用されることの整合性も確認される。これにより、作品への理解が深まることを伝え、辞書を活用する動機付けを高めた。

辞書を引く活動において2クラスのうち、1クラスでは紙の辞書を、もう1クラスではウェブの辞書を用いている。媒体による差異については4節で考察する。

3.3 語釈を作る活動

最後に、語釈を作る活動を行なった。語釈の作成にあたり、手順として①から④を示し、図14のワークシートに書き込む形で児童生徒に語釈を作成してもらった。

- ① 例文を10文作ります。
- ② どんな語といっしょに使われるか、考えます。
- ③ 説明する語を使わずに、別の表現で言い換えます。
- ④ ②と③を組み合わせて語釈を作ります。

児童生徒にも経験のある味覚の語義を持つ「あまい【甘い】」の語釈を作ってもらったところ、多くの児童生徒が図15のように複数の語釈を作ることができた。手順①において約10分で「甘い」を使った例文を10文書き出すことを求めたところ、計496回、平均して7.75回(最高13回,最低2回)「甘い」を使用した文が産出された。1文に複数回「甘い」が使用された場合は、使用された延べ回数を数えている。なお、「甘すぎる」、「甘かった」等の活用した「甘い」は数えているが、「甘酸っぱい」等の複合語や「甘さ」等の別の品詞への転成は「甘い」の多義性が反映されないため、数に含めていない。「甘い」は飛田・浅田(1991)で〈砂糖のような味がする様子〉、〈塩分がたりない様子〉、〈芳醇で快い様子〉、〈厳格さがたりない様子〉、〈程度が低く、不十分である様子〉に区別されている。児童生徒らは〈砂糖のような味がする様子〉、〈芳醇で快い様子〉、〈厳格さがたりない様子〉、〈程度が低く、不十分である様子〉の例文を書き出し、〈砂糖のような味がする様子〉と〈厳格さがたりない様子〉の区分を設けていた。

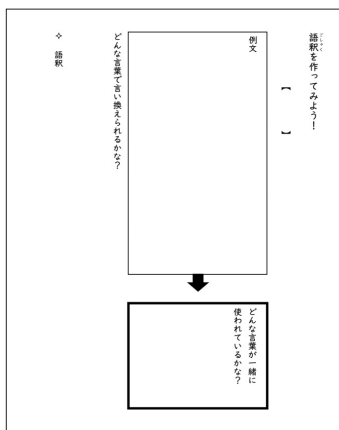


図14 語釈を作るワークシート

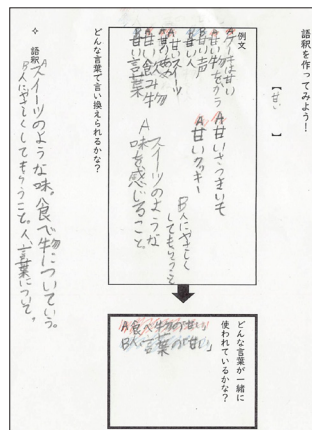


図15 語釈の作成事例

辞書を用いたクラスでは32名中8名が着色を行っていた。図16及び図17が着色の事例であり、例文の分類に赤色と青色が使い分けられている。紙の辞書に比べ、ウェブの辞書を使用した場合には色覚的な効果が得られる可能性がある。学習に色覚が活用されることで、より深い理解や記憶定着が期待される。

5. 考察と展望

語釈が説明する語が何かを考える活動、辞書を引く活動、語釈を作る活動を通して、児童生徒が辞書に親しむ契機となる授業の実践を試みた。語釈がどのように作られているかを知り、辞書編纂者たちが用例を収集し語釈を作るプロセスを体験する活動は、辞書に親しみ、辞書を活用することを支援する一助となったと思われる。

本論文で報告した授業実践を発展させる活動例を2種、展望としてあげる。まず、語釈を作った語と言い換え可能な類義語を見つけ、作成した語釈が類義語を排除するかを確認する活動である。これにより、語釈の精度が高まることが期待される。次に、辞書にまだ載っていない「エモい」、「モブる」などの新規語の語釈の作成も辞書に未掲載であるという動機付けによってより活発な活動につながると考えられる。

今後、継続して実践を充実させ、言葉の的確な運用と円滑なコミュニケーションを支援したい。

謝辞

本研究は北海道教育大学学長戦略経費の助成を受けて行ったものです。本研究で報告した調査の実施にあたり、渥美伸彦先生と斉藤誠先生に小学校での授業実践をアレンジしていただきました。ここに改めましてお礼を申し上げます。

【参考文献】

- 足立幸子 (2022)「国際学力調査におけるデジタル読解力」『全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集』143: 55-58.
- 石黒圭・柏野和佳子 (2018)『小学生から身につけたい一生役立つ語彙力の育て方』KADOKAWA.
- 國田祥子 (2015)「表示メディアが読みやすさと印象形成に及ぼす影響－iPadを用いて－」『中国学園紀要』14: 147-152.
- 國田祥子 (2016)「表示メディアが読みやすさと印象形成に及ぼす影響－iPad mini, Kindle Paperwhiteを用いて－」『中国学園紀要』15: 87-93.
- 国広哲弥 (1982)『意味論の方法』大修館書店.
- 黒川麻実・幸坂健太郎・佐藤宗大・篠崎祐介・永井ほのり・難波博孝・森美智代・本渡葵 (2022)「小学校における「深く読む」ことについての紙とデジタルによる比較調査－特に質的な部分に注目して－」『全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集』143: 33-36.
- 指澤竜也・川本健太・樋口みなみ・友居柊也・佐久間史也・松崎たお・飯尾淳 (2022)「紙媒体と電子媒体の資料の読み取りにおける効率等の比較～各媒体の利用状況での分析～」『人間中心設計』18(2): 17-24.
- 菅谷克行 (2012)「電子媒体上の読書に関する一考察」『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』12: 137-156.

菅谷克行 (2016) 「読書媒体の違いが読書方略に及ぼす影響」『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』20: 101-120.

中嶋彩菜・菅谷克行 (2013) 「紙媒体と電子媒体における「読み」の比較－高校現代文の読解問題をを用いた実験より－」『CIEC 研究会論文誌』4: 75-78.

難波博孝・黒川麻実・菅谷克行・豊福晋平 (2022) 「紙とデジタルの読解比較調査報告「小学校国語科におけるデジタル端末で「深く読む」ための調査・実践研究」中間報告」『全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集』143: 275-277.

飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』東京堂出版.

福田由紀・内山和希 (2015) 「表示媒体は校正読みにおける誤字脱字検出数と内容理解に影響するか? : 印刷物とタブレット、パソコンディスプレイの比較」『法政大学文学部紀要』70: 89-100.

湊吉正 (監) (2007) 『チャレンジ小学国語辞典 第4版』ベネッセコーポレーション.

【関連 URL】

ワン・パブリッシング (2020) 「辞典」『学研キッズネット』<https://kids.gakken.co.jp/jiten/> (2023年8月31日参照)

国立国語研究所 YouTube 公式チャンネル (2021a) 「「国語辞典 五十音順にならべかえてみよう」(講師: 柏野和佳子) / ニホンゴ探検 2021 ワークショップ」『YouTube』<https://www.youtube.com/watch?v=7F6ufHVtXc8> (2023年8月31日参照)

国立国語研究所 YouTube 公式チャンネル (2021b) 「「国語辞典どの言葉の説明かな?」(講師: 柏野和佳子) / ニホンゴ探検 2021 ワークショップ」『YouTube』<https://www.youtube.com/watch?v=YyBE1nXhLnk> (2023年8月31日参照)

国立国語研究所 YouTube 公式チャンネル (2022a) 「「どの言葉の説明かな?」(講師: 柏野和佳子) / ニホンゴ探検 2022 ワークショップ」『YouTube』<https://www.youtube.com/watch?v=NAqMqxPm7QE> (2023年8月31日参照)

国立国語研究所 YouTube 公式チャンネル (2022b) 「「あてはまる言葉はどれかな?」(講師: 柏野和佳子) / ニホンゴ探検 2022 ワークショップ」『YouTube』<https://www.youtube.com/watch?v=PeLzW1cbkZg> (2023年8月31日参照)

北海道教育大学附属旭川小学校 5年2組の保護者の皆様

北海道教育大学教育学部旭川校講師 西内沙恵

「調査研究への参加同意書」について

このたび学校の協力を得て、4月20日（木）の2校時目に北海道教育大学国語教育専攻日本語学講師、西内沙恵が授業をさせていただくことになりました。授業では国語辞典を用いて語句・語彙指導を行います。具体的には、語句の意味の説明を書く際、子供たちが指定の語からどのような例文を想起するのか把握し、データとしてまとめることとなります。得られたデータは、学術目的にのみ使用し日本語学研究で役立てるとともに、学校にも提供し、授業改善に役立てていただきます。

上記の趣旨を御理解いただき、以下の留意事項をお読みいただいた上で、本調査研究に参加することに同意していただける場合は、「調査研究への参加同意書」に署名し、切り離してお子様を持たせるなど、学校あて4月20日（木）までに御提出ください。

- ・この調査では日本語学的な関心から調査協力者（お子様）の語感を調べることを目的としています。
- ・この調査への参加は任意です。あなたとお子様の自由な意思が尊重されます。
- ・この調査への参加に伴い健康被害等の危険や、痛み等の不快な状態、その他あなたとお子様にも不利益となることが生じる可能性はありません。
- ・参加していて疲れを感じた場合は、休憩をはさませるよう配慮します。
- ・データは完全に匿名化し、個人が特定できない形で取り扱います。
- ・調査に参加しないことによって不利益な対応を受けることはありません。
- ・同意された後でも、理由の如何を問わず、何ら不利益を被ることなく、いつでもアンケートへの参加を取り止めることができます。
- ・同意が撤回された場合は、提供していただいたデータ等は廃棄され、撤回以降はそれらの情報が研究のために用いられることもありません。
- ・ただし、同意を撤回したときすでに研究成果が論文などで公表されていた場合やデータが完全に匿名化されて特定できない場合等、廃棄できないこともあります。
- ・同意を撤回する場合は下記問い合わせ先にご連絡いただけますと幸いです。

※上記中に「参加に伴い健康被害等の危険や、痛み等の不快な状態」等の表現がありますが、これらは、研究倫理上、こうした文書中で一般的に使用する表現であり、本調査がとりわけ危険な調査であるということではありません。

【問い合わせ先】

北海道教育大学 旭川校 国語教育専攻 日本語学 講師 西内沙恵

住所 : 〒070-8621北海道旭川市北門町9丁目

メール : nishiuchi.sae@a.hokkyodai.ac.jp

電話番号 : (0166)59-1271

調査研究への参加同意書（担任の先生に御提出ください）

上記の説明を読み、この研究に参加することに同意します。

令和5年 月 日

保護者の署名

(にしうち さえ 本学講師)